



設立 13 年目を迎え、環境教育は実践教育である…を実行し続ける
「板橋区立エコポリスセンター」を取材しました

環境教育プログラムを一人ひとりの教師に届け、 「人」を育てるために全力で支援・組織する 板橋区立エコポリスセンター

〈取材・記事〉

寺田茂・先崎正彦 (SOE)

〈取材させていただいた方々〉

板橋区立エコポリスセンター

所長 佐々木 正さん

環境教育推進係

係長 神山健次さん

主査 遠藤 宏さん

Yahoo の検索エンジンで「エコポリスセンター」と入力すると、第 1 画面のトップにこの施設紹介項目が出てくる。平成 7 年 4 月の開設当時は遠く海外からのメディアも取材に訪れたという。エコ (エコロジー：環境) とポリス (都市国家) の造語で命名されたこのセンター。ポリスという言葉に「警察なのか?」と勘違いされた逸話も残っているらしい。

センター開設当時の「環境事情」を振り返ってみると、平成 4 年にブラジルで「環境と開発に関する国際会議」が開催され、“人と地球の未来”を考える機運が高まっていた頃だ。「環境危機時計」という言葉が社会を席卷したのもちょうどこの頃と合致する。

当時の「地球があぶない」という危機意識は、昭和 40 年代に日本が抱えていた公害問題とは少し性質の違う意識だったように思う。日本の各自治体が次第にこの環境問題を重点項目に取り上げる最中、板橋区エコポリスセンターも生まれるのである。

●現場があるから楽しい

このセンターの掲げるテーマは大きく 4 つに分類される。

①健康・安全 ②自然・アメニティー ③地球環境 ④循環型社会

このテーマに沿ってどのような活動をしているのかを、センター職員の神山健次さんと遠藤宏さんに話をお伺いした。

—環境教育と一言でくくってもかなり広義な意味合いが含まれると思いますが、このセンターの役割を教えてください。



神山健次さん (右)、遠藤 宏さん (左)

神山「環境問題は〈知る〉〈考える〉だけでは何も解決しないんですね。そこに《行動する》という要素が加わって、はじめて動き出す問題だと思っています。私たちは《行動する》の部分にスポットを当て、その動機付けになるようなプログラムを考え、実践しています」

—具体的な実践というのは?

遠藤「センター内での学習会やフィールド (野外) での自然観察会、それに区内の学校に出向いて《出前授業》などがあります」

—出前授業などは結構要請があるんですか？

遠藤「平成18年度で51校。19年度では70～80校と年々増えてますね。大学への出前も経験しています。」（環境教育に関心が飛躍的に高まってきた表れでもある）

神山「平成14年頃から“総合的な学習”の一環で利用されることが多くなりました。小学校での理科専科の先生が少なくなったことと、教材はそろっていてもなかなか使いこなせていない現場状況の現れかもしれません」

—1回の授業としてはどれくらいのボリュームなんですか？

神山「学校の授業単位でいうと2時間ですね。テーマによっても違いますが、この時間内でどうやって〈行動する〉意識付けを伝えられるかが苦労するところです」

遠藤「でも、この現場があるから楽しいんですよ。思いもよらない発想を子供たちから教わることもありますから」



らい、個別の研究テーマの調査結果をセンターと共有しているという。またNPOとの連携による活動も加わり、さまざまなデータがセンターに集積されていく。この資料は大変貴重なものだ。

センター内のスタッフは技術職4人、電気関係2人、保育士1人、環境学習指導員（非常勤）4人という内訳だ。「ただ、ボランティアスタッフとして100人の区民の方々に名前を連ねていただいています」と神山さん。このスタッフにはトンボや蝶、野草などの指定テーマについて観察や地域観察グループを組織しても



美しい貴重種のアカボンソゴマダラ蝶の死骸を赤塚公園で採取

●『板橋区環境教育ハンドブック』の価値

遠藤さんが1冊のバインダー資料を手渡してくれた。「板橋区環境教育ハンドブック～未来に引き継ごう 板橋の環境」と銘打ってある。

タイトルだけを読むと堅い学術書のような印象を受けるが、中身を追っていくと貴重な実践の集大成であることがわかる。昨年度1年間、SOEも環境教育プログラム部員委嘱を受け検討を重ね、授業でも試行して得た実践記録だ。机上だけでは決して編むことのできない、まさに「かゆい所に手が届く」内容がふんだんに盛り込まれた手引き書である。



「これを板橋区内の小・中学校に配布しました。学校に1冊ではなく、先生方ひとりに1冊ずつです」と神山さんが笑顔で話してくれた。この意気込みは他の自治体に先がけているものだ！

「環境教育の分野でキーポイントになるのは《人》なんですね。いかに人材を教育していくかとか、スタッフを確保していくか……。このプログラムを有効に使っていただいでひとりでも多くの指導者が育ってくれればうれしいですね」

このような人材の裾野が広がっていくスピードは、いきなりトツ

プラグには入りにくい。エコポリスセンターの活動も、今日実践をしたことが明日成果のするような性質のものではないだろう。しかし、こうした地道な活動の積み重ねが、板橋の子どもたちの行動を変え、区民に広がり地球の（人類の）抱える問題解決にきつとつながっていくに違いない。（S）

.....
エコポリスセンター所長の佐々木正さんにお話を伺いました。



< 佐々木所長の願い >

これからは、実際に生活している自分を見つめなおすことが区民一人ひとりに必要ではないか。環境という言葉がはやりでもあり一人歩きしている。環境の根本的なところは理解していないこともある。自分の生活を見つめて初めてわかることがある。日常、打ち合わせに紙を配るのも本当に必要か。自然素材といっても、輸入材がほとんど。一つ一つチェックをすれば、もっと、質素に暮らせる。授業などで、机上の知識ではなく、生活の中で考えていくことが大切になっている。エコポリスセンターは、環境の問題に気付かせること、動機付けの場所である。生活者としてお金のかからない生活を目指すことだと思う！！

.....
板橋区立エコポリスセンター

板橋区前野町 4-6-1

☎ 5970-5001 FAX:5970-2255

<http://www.ita.ed.jp/ecopolis>

開館時間：午前9時から午後5時まで

休館日：毎月第三月曜日

最寄り駅：東武東上線ときわ台駅 徒歩 15分

地下鉄都営三田線 志村坂上駅 徒歩 15分

.....
◎板橋区の環境関連行事のご案内◎

緑のカーテン 講習会 受講者募集

板橋区が、緑のカーテンの効果・育て方・区内での取り組みなどを実践を交えながら紹介する講習会を開催します。受講者にはゴーヤの苗が配られるとのこと、ぜひこの機会にご参加を。

日時：5月11日（日） 10時～11時30分

場所：前野ホール

定員：30人（定員を超えた場合は板橋区在住の方を優先）

費用：無料

共催：地球温暖化防止活動推進協議会、グループけやき・さくらの会

申込み：問い合わせ先：5月2日までに、電話・FAX・Eメールで

①緑のカーテン講習会申込 ②郵便番号・住所 ③氏名（ふりがな）

④電話番号・FAX番号・Eメールアドレスを明記の上 下記まで

《板橋区環境保全課地球温暖化対策係》

電話：03-3579-2596 FAX：03-3579-2589

メールアドレス：s-oncanka@city.itabashi.tokyo.jp

● S.O.E. 活動報告 (2008年3月)

日	曜	内 容
9	日	センスオブアース3月号ニュースの発行 作業日 2300 部発送
16	日	エコポリスセンターで 佐々木所長、神山係長・遠藤主査に取材。4月号掲載予定。
19	水	区内中学校卒業式出席。
20	木	フードマイレージの模擬授業学習会 SOEと学生とのワークショップとして。 食料を手に入れるまでのエネルギー消費量をわかりやすく計算し、できるだけ、エネルギーを使わないで食べ物を手に入れる方法を考える授業を体験。その後、小学5・6年生用の授業プログラムを検討作成した。
20	木	夕方から《SOEお花見会》
25	火	区内小学校卒業式出席。ピオトープ観察交流。例年よりアズマヒキガエルの産卵が遅れ、その上少ないのが気がかり。

● S.O.E. 活動予定 (2008年4月)

3	木	SOE理事長 寺田 大学院修士課程入学—環境マネジメント専攻
4	金	平成20年度板橋区研究奨励校 板橋第七小研究発表(9月19日) 環境教育推進を目指し、シンポジウムを行なうため講師依頼承諾。寺田司会・藤本和典氏シンポジストとして参加予定。
12	土	日本女子大学人間社会学部教育学科1年への授業開始。非常勤講師 寺田。
20	日	1時～ センスオブアース4月号ニュース発行作業日 於：エコポリスセンター
22	火	第一法規出版の契約記者より、夢を実現させたピオトープ作りについて取材予定。
27	日	1時～ SOEと学生との 第20回 於：ワークショップ・エコポリスセンター2階 環境学習室 フードマイレージの小学生版 授業プログラム作りなど
29	火	区内小学校ピオトープ観察 10時～

身近な川の一斉水質調査 参加者募集

主催：NPO 法人 荒川クリーンエイドフォーラム

センスオブアースは今年も参加します。新河岸川で実施する予定です。この調査は、荒川本流だけでなく、荒川に流れ込む支流や池などの水質の状態がわかり、併せてその経年変化も知ることができます。地域の水辺の環境に関心を持つきっかけになればと思っています。調査データは、全国規模で行っている全国水環境マップ実行委員会へも送られ、日本の水系環境の現状を把握する資料として役立てられています。

日時 | 6月8日(日) 10時集合

会場 | 板橋区の新河岸川舟渡大橋

ご参加お申し込み・お問い合わせは下記センスオブアースまで

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp